

「閉じる／開ける技術」の総合力で省エネ住宅のトップランナーに

フィアスホームが提案するオール電化住宅「ルーチェ」

住宅のエネルギー効率に着目し省エネ性に優れたオール電化住宅のトップランナーを表彰する、財団法人日本地域開発センター主催の「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック」。2009年度、その大賞を受賞したのは、日野建ホームの「ムダの無い家」とシステムやINAXなどの企業を擁する住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開するシステム住宅研究所 フィアスホームカンパニーの「ルーチェ」。今回は、総合力で高い省エネ性を発揮するシステム住宅研究所 フィアスホームカンパニーに、その開発思想をうかがった。



株式会社システム住宅研究所 常務取締役兼 フィアスホームカンパニー プレジデント 条生 秀人氏

株式会社システム住宅研究所 フィアスホームカンパニー
2002年、INAXシステム・ホールディングス(現・住生活グループ)の事業会社として設立。2008年、プライトホームカンパニー、ゴーイングホームカンパニー、ワンダーホームカンパニーの3つの社内カンパニーをフィアスホームカンパニーとして統合し、より強力な住宅FCブランド「フィアスホーム」を全国に展開。また、主婦をターゲットとした住まいの情報サイト「おうち＊くらぶ」を運営。

3回目を迎える「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック」。2009年度、最高賞の大賞に輝いたのは、システム住宅研究所 フィアスホームカンパニー(以下・フィアスホーム)のオール電化住宅「ルーチェ」。
日本が国際公約とした温暖化ガス25%削減の実現には、住宅部門の努力が不可欠である。フィアスホームは環境という大きなテーマと住生活をつまぐつなぎ、住まい手が共感しやすい高性能な省エネ住宅を手がけてきた。その取り組みの成果が2009年度の省エネ住宅最高賞として表彰された。
二つの環境デザインから住まいづくりを考える
「私どもは昨年前から『環境デザイン』のフィアスホーム」をテーマに企業活

動を展開してきました。一般にデザインは意匠と考えがちですが、フィアスホームは意匠と機能の両立による「住まいづくりの指針に『環境デザイン』という言葉をを用いています」
フィアスホームカンパニー プレジデントの条生秀人氏は、自社の住宅に対する基本的な考え方をこう説明する。同社が掲げる「環境デザイン」には、地球環境の創造と住生活環境の創造の二つの意味が込められているという。
「地球と住生活は環境としての規模は違いますが、住宅においては温暖化ガス削減と省エネという共通の視点で捉えることができる。省エネは家計の光熱費軽減にもつながります。同時に建て主の投資効果を最大限に高めることを主眼に置き、個々の性能や技術レベルに拘泥するのではなく、トータルで『環境デザイン』に優れた家の提供を考えてきました。この挑戦に対し『ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2009 大賞』という評価をいただけたことを嬉しく思っています」(条生氏)

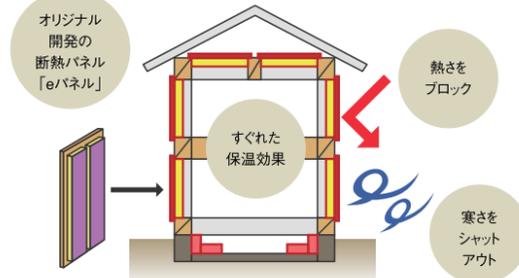


「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2009」大賞を受賞したフィアスホーム「ルーチェ」。優れた断熱性能、暖冷房エネルギー消費量の低減、エコキュートの採用、照明の省エネ措置など、幅広い省エネ化に加え、住宅性能技術の「見える化」による取り組みが高く評価された (資料提供:システム住宅研究所)

「ルーチェ」は個々の技術や性能でランナーを誕生させたわけだ。「暮らしにエネルギーを使うだけでなく、作る、貯めるという観点が生まれてきています。電気はこうした時代の暮らしに最適なエネルギー。『ルーチェ』では電気自動車を組み込んだオール電化住宅として提案しています。今日においても、省エネと安全性ではオール電化は優位性があり、高気密・高断熱住宅とも相性がよい。将来の『環境デザイン』を極めるにもオール電化は必須であると思っています」(条生氏)

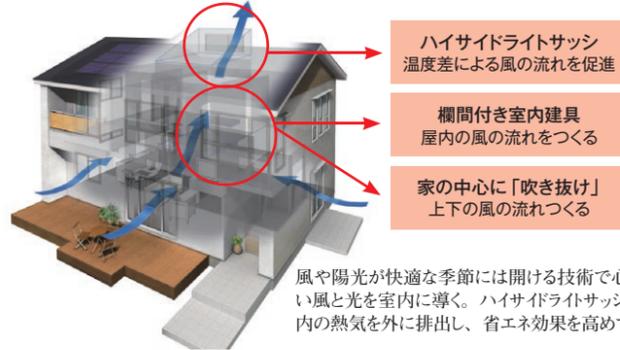
フィアスホーム「LUCE (ルーチェ)」の「閉じる／開ける技術」

【閉じる技術 ~高気密・高断熱~】



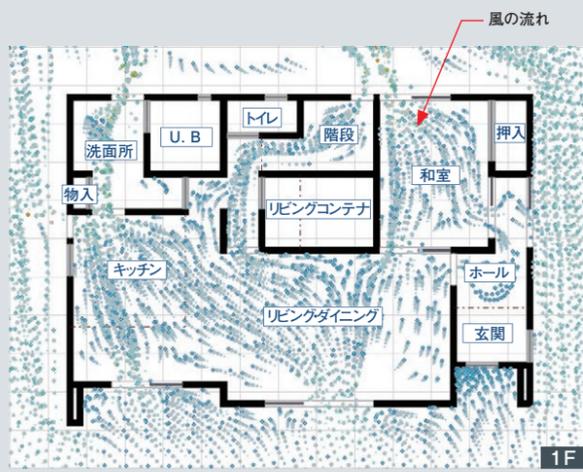
断熱材と構造用パネルを一体化した、独自の「eパネル」採用と開口部の高性能化で次世代省エネ基準をクリア。計画的な換気を可能にする高い気密性も確保されている

【開ける技術 ~風と光のデザイン~】



風や陽光が快適な季節には開ける技術で心地よい風と光を室内に導く。ハイサイドライトサッシは室内の熱気を外に排出し、省エネ効果を高めている

【風のデザイン】通風シミュレーションの一例



フィアスホームでは固有の敷地条件とアメダスデータを組み合わせた最新の通風シミュレーションを行い、季節の室内の風の流れを「見える化」してプランづくりに活用している

最高点を獲得した部門は少ないが、総合的な省エネ性能の評価はもつとも高かった。「私どものトータルな省エネ住宅開発が実証され、評価されたことは、たいへん喜ばしいことでした」と条生氏は言う。
フィアスホームのトータルで高性能な家づくりを支えるのは「閉じる技術」と「開ける技術」だ。前者は断熱性能と気密性能の向上のための断熱材一体型のeパネルの技術。後者は、風や光といった自然のエネルギーを室内に採り込み、住生活に生かす開口

設計の技術である。また、断熱・遮熱性能を光熱費やCO₂に換算した「eレポート」や、建築後の気密測定結果を記載した「性能報告書」などで、建て主に提案・報告するなど、性能の「見える化」にも取り組んでいる。
通風・日照計画は、敷地条件とアメダスデータによる個別のシミュレーションが行われ、こちらも目に見える資料としてプランづくりに活用される。これらの二つの技術の総合力と最適な設備の組み合わせが、省エネ性に優れたオール電化住宅のトップ